

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 10 月 4 日現在

機関番号：14501

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2015

課題番号：25770043

研究課題名(和文) 国際美術シーンにおけるポップアートの広がりとその展開に関する比較文化的研究

研究課題名(英文) A Comparative Study on the International Proliferation of Pop Art and Its Development in Japan

研究代表者

池上 裕子 (Ikegami, Hiroko)

神戸大学・国際文化学研究所・准教授

研究者番号：20507058

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：研究期間中、精力的に研究テーマについて調査を行い、学会や国際シンポジウムでの発表を行った。また、本研究の大きな成果として、2015年4月にアメリカのウォーカー・アート・センターで開催された『International Pop』展の日本セクションの展示のキュレーションを担当し、図録に論文を寄稿したことが挙げられる。大規模な国際展である本展は、1960年代の国際的なポップアートの広がりを検証するもので、そこに日本人作家の作品や関連資料を展示することで、戦後日本美術のプレゼンスを大きく示すことができた。

研究成果の概要(英文)：I conducted an extensive research on this topic during the tenure of this fellowship, while presenting a paper in a number of international conferences. The major accomplishment of this study was "International Pop" exhibition, for which I acted as a consulting curator for the Japanese section as well as writing a catalogue essay. The exhibition, which opened at Walker Art Center in the United States in April 2015, surveyed the global spread of Pop Art in the 1960s, and I was able to demonstrate an important presence of postwar Japanese art in the international art scene of the day.

研究分野：美学・美術史

キーワード：ポップ・アート 美術史 比較美術史 戦後美術

1. 研究開始当初の背景

- (1) 国際美術シーンにおける戦後日本美術の展開と日米美術交流について検証した前回の若手研究(B)を通して、1960年代におけるポップアートの国際的広がり注目した。
- (2) 日本におけるポップアートの表現の広がりについては、本格的な研究が存在しなかったため、本研究の課題として取り上げることとした。
- (3) ウォーカー・アート・センターが企画中だった「International Pop」展に日本セクションのキュレーターとして協力を要請された。

2. 研究の目的

- (1) 国際美術シーンにおけるポップアートの広がり日本の展開について、比較文化的な視点から歴史的に検証する。
- (2) ポップアートに触発されて作品を制作した日本人作家の背景や動機を検証し、批評家や画廊との関係を検証する。
- (3) ポップアートが大きな影響力を持ったグラフィック・デザインの分野についても調査を行い、前衛美術との関係を考察する。

3. 研究の方法

- (1) 慶應大学アート・リサーチ・センターや草月会資料室、ニューヨーク近代美術館など、各研究機関が所蔵する未公開資料の調査。
- (2) ポップアートに関連する日本人作家への聞き取り調査。聞き取りはオーラル・ヒストリーの方法論を用いて行う。
- (3) 海外で開催されるポップアート展の視察と資料収集、及び作品の実見による調査。

4. 研究成果

- (1) 慶應大学アート・リサーチ・センターや草月会資料室、ニューヨーク近代美術館など、各研究機関が所蔵する未公開資料の調査と資料収集を行った。
- (2) ポップアートに関連する日本人作家への聞き取り調査を行った。聞き取りを行ったのは田名網敬一、岡本信治郎、横尾忠則、小島信明など。これらのインタビューは「日本美術オーラル・ヒストリー・アーカイブ」のホームページで公開されている。
- (3) 調査結果を国内外の学会やシンポジウム

で発表した。主なものに2013年にケンブリッジ大学で行われた国際シンポジウム、パリ高等学院でのセミナー発表、2014年にニューヨークとストックホルムで行われた国際シンポジウム、2015年の「International Pop」展シンポジウムでの発表がある。

(4) 2014年3月に自ら組織した国際シンポジウム「Multi-Locale Pops in the 1960s」を神戸大学と上智大学の共催で行った。海外から講演者としてニューヨーク大学のトマス・クロウ教授、Getty財団研究所副所長のアンドリュー・パーチャック、シカゴ美術研究所のダニエル・キルス助教授を招き、自らも研究発表を行った。また、上智大学の林道郎教授を司会者、京都市立芸術大学の加治屋健司准教授、国際基督教大学非常勤講師の中嶋泉氏をディスカッサント、東京芸術大学非常勤講師の近藤學氏を通訳として、日本の研究者たちと討議の場を設けた。シンポジウムはUstreamでライブ配信した。

(5) 本研究の調査成果をウォーカー・アート・センターが2015年4月に開催した「International Pop」展の図録に寄稿した論文と、キュレーターとして担当した日本セクションでの展示に結実させた。日本人作家の作品や関連資料、アニメ作品、スライドショーなどの展示を通じて、国際美術シーンにおける戦後日本美術のプレゼンスを大きく示すことができた。本展はミネアポリスにあるウォーカー・アート・センターでの展示後、テキサスのダラス美術館、ペンシルヴァニア州のフィラデルフィア美術館へも巡回し、『ニューヨーク・タイムズ』の文化欄一面に展評が載るなど、その意義が高く評価された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 4件)

Hiroko Ikegami “Focus Review: Takashi Murakami,” *Artforum* vol. 54, no. 6 (February 2016), pp. 232–233. (査読無)

Hiroko Ikegami “Lost in Translation? ‘Twenty Questions to Bob Rauschenberg,’” *Post: Notes on Modern and Contemporary Art around the Globe*, on-line journal of Museum of Modern Art, New York, September 2014 (査読無) <http://post.at.moma.org/>

Hiroko Ikegami “Shinohara Ushio’s Dialogue with American Art: From Imitation Art to Pop Ukiyo-e,” *Post:*

Notes on Modern and Contemporary Art around the Globe, on-line journal of Museum of Modern Art, New York, September 2014 (査読無)
<http://post.at.moma.org/>

池上裕子「世界的視野から問い直されるポップ」『美術手帖』66巻1002号(2014年2月) pp. 80-85 (査読無)

[学会発表](計 14件)

Hiroko Ikegami “‘Event’ as a Global Format: Merce Cunningham Dance Company’s World Strategies,” Joint Workshop of Freie Universität Berlin and Kobe University, November 22, 2015, Kobe University (兵庫県)

Hiroko Ikegami et al, “Internationality of Pop,” Symposium “International Pop: Opening-Day Talks” April 11, 2015, Walker Art Center, Minneapolis (アメリカ)

Hiroko Ikegami et al, “Tokyo Pop: Discussion with Ushio Shinohara and Keiichi Tanaami,” Symposium “International Pop: Opening-Day Talks” April 11, 2015, Walker Art Center, Minneapolis (アメリカ)

Hiroko Ikegami “The New York Connection: Pontus Hultén’s Curatorial Agenda in the 1960s,” key note lecture in a symposium “Art in Transfer: Curatorial Practices and Transnational Strategies in the Era of Pop,” November 8, 2014, Moderna Museet, Stockholm (スウェーデン)

Hiroko Ikegami “Tokyo Pop’s Second Wave: Yokoo Tadanori and Tanaami Keiichi,” presented in a symposium “For a New Wave to Come: Post-1945 Japanese Art History Now,” September 13, 2014, Japan Society, New York (アメリカ)

池上裕子 アメリカのポップ、世界のポップ：アンディ・ウォーホルと田名網敬一を中心に」アンディ・ウォーホル展連続レクチャー、2014年4月26日、森美術館 (東京都)

Hiroko Ikegami “Tokyo Pop: Embracing America, Contesting Empire,” International symposium “Multi-Locale Pops in the 1960s,”

March 29, 2014, Sophia University (東京都)

Hiroko Ikegami “Transnational Pop and Its Politicality: A Case in Tokyo,” Joint Workshop of Freie Universität Berlin and Kobe University, February 6, 2014, Freie Universität Berlin (ドイツ)

池上裕子「アーカイブとオーラル・ヒストリーの関係について」シンポジウム「アーティストの言葉—アーカイブと沖縄美術」2013年12月6日、沖縄県立美術館 (沖縄県)

池上裕子「モダンアートの地政学：MoMAによる戦後日本美術の紹介とその評価」、『戦後日本美術』をめぐるシンポジウム」2013年10月20日、筑波大学東京学舎 (東京都)

Hiroko Ikegami “Thoughts on Rauschenberg and After,” Artlas Seminar, September 26, 2013, École Normale Supérieure, Paris (フランス)

Hiroko Ikegami “Toward a Transnational Understanding of Pop: A Case in Tokyo,” international symposium “Reimagining Modernism,” September 23, 2013, University of Cambridge (イギリス)

池上裕子「見ることと見られること：東京のジャスパー・ジョーンズ、1964年」大原美術館夏期美術講座、2013年7月27日、大原美術館 (岡山県)

Hiroko Ikegami “Recontextualizing Neo-Dada: Jasper Johns in Tokyo, 1964,” The Terra Lecture in Americanist Postmodern, April 7, 2013, School of Art Institute Chicago (アメリカ)

[図書](計 4件)

池上裕子 三元社、『越境と覇権：ロバート・ラウシェンバーグと戦後アメリカ美術の世界的台頭』2015年、pp. 406

池上裕子 他、中央公論美術出版『油彩への衝動』2015年、pp. 330(pp. 283-304)

Hiroko Ikegami 他、Walker Art Center, *International Pop*, 2015, pp. 395 (pp. 165-180, pp. 194-201)

Hiroko Ikegami et al, International
Institute for Art Historical Research,
*Between East and West:
Reproductions in Art*, 2014, pp. 436
(pp. 349–361)

〔その他〕

ホームページ等

日本美術オーラル・ヒストリー・アーカイヴ

<http://www.oralarthistory.org/>

6．研究組織

(1)研究代表者

池上裕子 (IKEGAMI, Hiroko)

神戸大学・国際文化学研究科・准教授

研究者番号：20507058

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者

()

研究者番号：